

[3] 次の文章は『宇治拾遺物語』の中の一話である。本文の左側の現代語訳を参考にして、後の各問いに答えなさい。

昔、天竺の人、宝を買はんために、錢五十貫を子に持たせてやる。大なる川のはたを行くに、舟に乗りたる人あり。舟のかたを見やれば、舟より亀く
宝物を買うために、錢五十貫を子に持たせてやった。大きな川のほとりを行くと、舟の方を見やると、舟から亀が

びをさし出したり。錢持ちたる人、たちどまりて、この亀をば、「何の料ぞ。」と問へば、「殺して物にせんずる」といふ。「その亀買はん。」といへば、こ
首をさし出している。「何に使うのか。」「殺して大切なことに使うつもりだ。」「その亀を買いたい。」

の舟の人はく、いみじきたいせつのことありて、まうけたる亀なれば、いみじき価なりとも、売るまじき由をいへば、なほあながちに手をすりて、この
非常に大切なことがあつて、用意した亀だから、どれほど高い値段でも、売るつもりはないということを言うので、なおもひたすらに手をすり合わせて、

五十貫の錢にて、亀を買ひ取りて放ちつ。
五十貫の錢を払って、

心に思ふやう、親の、宝買ひに隣の国へやりつる錢を、亀にかへてやみぬれば、親、いかに腹立ちたまはんずらん。さりとして、また、親のもとへ行か
その子が心に思うには、親が、宝物を買うために隣の国へ持たせた錢を、亀を買つて使ってしまったので、親はどんなに腹をお立てになるだろう。

あるべきにあらねば、親のもとへ帰り行くに、道に人のゐていふやう、「ここに亀買ひたる人は、このしもの渡りにて、舟うち返して死にぬ。」と語るを聞
途中に人がいて言うには、「あなたに、このしもの渡し場で、舟が転覆して死んでしまった。」

きて、親の家に帰りゆきて、錢は亀にかへつる由語らんと思ふほどに、親のいふやう、「何とてこの錢をば返しおこせたるぞ。」と問へば、子のいふ、「さ
錢は亀を買つてしまったということを経そうと思ううちに、」
「どうしてこの錢を返してよこしたのか。」

ることなし。その錢にては、しかじか亀にかへてゆるしつれば、その由を申さんとして参りつるなり。」といへば、親のいふやう、「黒き衣着たる人、同じや
なことはありません。その錢では、これこれで亀を買つて放してやったので、そのことを申しあげようと思つてもどつてまいりました。」
「黒い着物を着た人で、同じよ

うなるが五人、おのおの十貫づつ持ちて来たりつる。これそなる。」とて見せければ、この錢「X」濡れながらあり。
うなのが五人、めいめい十貫づつ持つてやってきたのだ。これがそつだ。」
この錢は濡れたままである。

はや、買ひて放しつる亀の、その錢川に落ち入るを見て、取り持ちて、親のもとに、子の帰らぬさきにやりけるなり。
これはどういうわけかという、買つて放してやった亀が、子の帰らぬ先に届けたのであつた。

【語注】 注 天竺……インドの古称。

問一 線部A「あながちに手をすりて」はどのような様子を表現しているか。次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① おべっかをつかつている様子
② すべらぬように手をこする様子
③ 熱心にたのみこんでいる様子
④ しきりに助けを求めている様子

問二 線部B「さりとして」の説明として、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 親が立ち去ってしまったので
② さりげなくまわりを見回したが
③ 親が腹をたてるからといって
④ 亀をこのまま逃がしてしまつて

問三 線部C「行かであるべきにあらねば」の現代語訳として最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 行つたままではすまないことなので
② 行かないですむはずのことではないので
③ 行つて亀がいることを伝えなければ
④ 行かないでそのままそこにいたら

問四 線部D「さること」はどのようなことを指しているか。次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① あずかった錢を親に返したこと
② 舟が沈没して錢をなくしたこと
③ 持つていた錢で亀を買ったこと
④ 亀がお札に錢を返しにきたこと

問五 線部①～④の中に、話のすじからみて、表現のうえで誤っているものが一つある。それはどれかを選び、その番号をマークしなさい。

問六 「X」に入れることばとして、最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークしなさい。

- ① かつて
② いまだ
③ ただちに
④ つねに

問七 作者がこの話をおして、最も強く訴えかけているものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 動物をいじめると、悪いむくいがあるものだ。
② 天竺にはたいそうおもしろい話があるものだ。
③ おとなにくらべて、子どもは愛情深いものだ。
④ よいことをすれば、よいむくいを受けるものだ。